

# 第7章 教 育

## 第1節 教育委員会

### 1 教育委員会

委員会は、定例会を11回、臨時会を5回招集し、議案件数は30件であった。

### 2 総合教育会議・教育大綱

総合教育会議は、平成27年に地方教育行政の組織及び運営に関する法律の改正により設置されたもので、市長と教育委員会によって構成されており、教育大綱の策定や「教育を行うための諸条件の整備その他の地域の実情に応じた教育、学術及び文化の振興を図るため重点的に講ずべき施策」等について協議・調整を行う。

総合教育会議での協議を経て、令和2年12月に策定した新たな「沼津市教育大綱」に基づき、誇り高い沼津を創造する「貴き志を持つ人」の育成を進めている。

### 3 教育基本構想

沼津の教育の方向性を明確にし、教育施策を総合的に進めていくための指針として令和3年3月に策定した「沼津市教育基本構想」に掲げる、「人間力を磨く教育」と「地域総がかりで取り組む教育」を一体的に推進した。

また、構想に示した理念や方向性の具現化を図るため、構想と併せて策定した「沼津市教育基本構想実施計画」に基づき、各事業を展開した。

### 4 学校規模・学校配置適正化推進事業

全国的に少子高齢化が進み、本市においても地域によって児童生徒数の減少により、学校規模の差が大きくなっている。よりよい教育環境の整備や教育の質の更なる充実を図るため、「沼津市立小・中学校の適正規模・適正配置の基本方針」を平成29年度に策定し、その後、令和2年12月に改正して取り組みを進めている。

戸田及び長井崎中学校区において、学校、保護者、地域自治会などで組織する地区推進委員会での協議等を経て、4月に小中一貫学校の開校に至った。

第二中学校区においては、第一中学校区を含めた地区推進委員会で協議を進め、6月に適正化方針を決定したが、地域要望等を受けて、10月に方針を廃止した。

## 第2節 学校の運営・管理

5月1日現在における市立の学校・幼稚園数、学級数、教職員数（兼務者除く）、児童・生徒・園児数（認定こども園は除く）は次のとおりであった。

区 分	学校・幼稚園数	学 級 数	教 職 員 数	児童・生徒・園児数
小 学 校	23 校	316 学級	642 人	7,811 人
中 学 校	18	169	437	4,527
高 等 学 校	1	15	62	604
幼 稚 園	1 園	3	7	23

### 1 小 学 校

金岡小学校屋内運動場LED照明改修工事のほか、各小学校の営繕工事等を実施した。また、要保護及び準要保護家庭の児童の保護者に対して就学援助費を支給し、特別支援学級児童の保護者に対して特別支援教育就学奨励費を支給した。

#### (1) 経常費の状況

年 度	学 級 数	児 童 数	決 算 額	1学級当たりの 金 額	1人当たりの金額
3	316 学級	7,811 人	1,696,631 千円	5,369,086 円	217,210 円
2	325	8,145	1,854,739	5,706,889	227,715

#### (2) 経常費の児童1人当たりの状況

(単位 円)

年 度	人 件 費	物 件 費	維持補修費	そ の 他	計
3	44,448	148,807	13,742	10,213	217,210
2	48,561	152,269	16,904	9,981	227,715

(3) 要保護及び準要保護児童の就学援助費

区 分	児 童 数	金 額
学用品購入費・校外活動費等	852 <sup>人</sup>	11,950,628 <sup>円</sup>
修 学 旅 行 費	156	1,321,113
通 学 費		
新入学児童学用品費等	106	5,053,494
学 校 給 食 費	852	40,725,385
医 療 費		
3 年 度	1,966	59,050,620
2 年 度	2,171	58,181,651

※新入学児童学用品費等は令和4年度入学者分を含む

(4) 特別支援学級児童の特別支援教育就学奨励費

区 分	児 童 数	金 額
学用品購入費・校外活動費等	84 <sup>人</sup>	417,275 <sup>円</sup>
修 学 旅 行 費	17	73,852
通 学 費	23	658,890
新入学児童学用品費等	12	274,124
学 校 給 食 費	83	1,994,084
3 年 度	219	3,418,225
2 年 度	213	3,017,986

## 2 中 学 校

戸田地区小中一貫校整備工事、静浦小中一貫校屋内運動場LED照明改修工事のほか、各中学校の営繕工事等を実施した。また、要保護及び準要保護家庭の生徒の保護者に対して就学援助費を支給し、特別支援学級生徒の保護者に対して特別支援教育就学奨励費を支給した。

### (1) 経常費の状況

年 度	学 級 数	生 徒 数	決 算 額	1学級当たりの 金 額	1人当たりの金額
3	169 <sup>学級</sup>	4,527 <sup>人</sup>	1,048,047 <sup>千円</sup>	6,201,461 <sup>円</sup>	231,510 <sup>円</sup>
2	166	4,516	1,034,340	6,230,962	229,039

### (2) 経常費の生徒1人当たりの状況

(単位 円)

年 度	人 件 費	物 件 費	維持補修費	そ の 他	計
3	42,917	155,113	16,831	16,649	231,510
2	41,142	149,220	22,477	16,200	229,039

### (3) 要保護及び準要保護生徒の就学援助費

区 分	生 徒 数	金 額
学用品購入費・校外活動費等	645 <sup>人</sup>	15,869,025 <sup>円</sup>
修 学 旅 行 費	152	1,860,738
通 学 費		
新入学生徒学用品費等	179	10,740,000
学 校 給 食 費	630	34,334,019
医 療 費		
3 年 度	1,606	62,803,782
2 年 度	1,625	58,382,468

※新入学生徒学用品費等は令和4年度入学者分を含む

(4) 特別支援学級生徒の特別支援教育就学奨励費

区 分	生 徒 数	金 額
学用品購入費・校外活動費等	41 人	348,785 円
修 学 旅 行 費	6	43,993
通 学 費	9	186,861
新入学生徒学用品費等	16	463,840
学 校 給 食 費	40	1,177,908
3 年 度	112	2,221,387
2 年 度	90	1,752,661

### 3 高 等 学 校

中高一貫教育の利点を生かし、6年間を通じた教育の充実に努めた。

(1) 経常費の状況

年 度	学 級 数	生 徒 数	決 算 額	1 学級当たりの 金 額	1 人当たりの金額
3	15 <sup>学級</sup>	604 <sup>人</sup>	541,870 <sup>千円</sup>	36,124,667 <sup>円</sup>	897,136 <sup>円</sup>
2	15	597	563,423	37,561,533	943,757

(2) 経常費の生徒1人当たりの状況

(単位 円)

年 度	人 件 費	物 件 費	維持補修費	そ の 他	計
3	764,265	124,108	6,820	1,943	897,136
2	767,011	141,426	34,750	570	943,757

#### 4 幼稚園

心豊かで思いやりのある園児の育成に努めた。

##### (1) 経常費の状況

年 度	学 級 数	園 児 数	決 算 額	1学級当たりの額 金	1人当たりの金額
3	3 <sup>学級</sup>	23 <sup>人</sup>	60,724 <sup>千円</sup>	20,241,432 <sup>円</sup>	2,640,187 <sup>円</sup>
2	6	30	82,662	13,777,000	2,755,400

※令和3年度に戸田幼稚園は認定こども園化

##### (2) 経常費の園児1人当たりの状況

(単位 円)

年 度	人 件 費	物 件 費	維持補修費	そ の 他	計
3	2,336,225	259,584	43,180	1,198	2,640,187
2	2,399,705	337,725	12,393	5,577	2,755,400

※令和3年度に戸田幼稚園は認定こども園化

## 第3節 学 校 教 育

### 1 「チーム学校」実現事業

各学校が、地域性や学校の独自性を生かした特色ある教育活動を通して中期計画を達成するために、児童生徒支援員や図書館支援員など必要な支援員を配置した。また、各学校が行う地域交流の推進と外部人材の活用を図る事業を支援することを目的に、小学校22校、中学校17校の各学校で行われた事業に対し交付金を交付した。

また、第五・大岡の各中学校区に加え、片浜・静浦の各中学校区をコミュニティ・スクール地区として指定し、学校運営協議会を設置するなど、地域総がかりでの学校運営に取り組んだ。

### 2 言語教育による表現力・読解力育成事業

国の承認を受けた、「読解の時間」と「英語の時間」からなる特別な教育課程「言語科」の授業を中心に、言葉を用いて人と積極的に関わる態度や論理的な思考力、表現力が高まる言語教育の推進及び読書活動の充実による読書力、読解力の向上を図った。

また、子どもたちが英語や異文化に親しみながら、英語によるコミュニケーションへの自信や興味、関心、意欲を高めていくことを目的として、小・中学校（中等部を除く）にALT（外国語指導助手）を配置したほか、中学校全学年を対象に中学校卒業程度の英語力を必要とする英検3級の検定料の一部を補助し、438人の生徒が利用した。

### 3 中高一貫教育

沼津市立沼津高等学校・中等部は、中高一貫教育校として6年間の計画的、継続的な教育を通し、生徒個々の自己実現を図ることを目標に、生徒の学力向上や個性を伸ばす教育を活発に展開した。

### 4 情 報 教 育

小・中学校の情報機器の更新等を行うとともに、国が進めるGIGAスクール構想実現に必要な教職員のICTスキル向上のため、情報教育コーディネーターが1人1台端末や大型提示装置などのICT機器を活用した授業づくりを支援する学校訪問を行った。

そのほか、沼津市立小中高等学校ネットワーク協議会によるICT機器の活用とデジタル教材活用のための研究を行うなど、ICTの活用を通じた教育の質の向上に取り組んだ。

## 5 教職員の人事管理・研修

### (1) 人 事

学校や地域の実態及び教育課題に基づいた学校づくりや、信頼に応える教育の実現を目指す組織づくりのため、年度末に237人（小学校140人、中学校97人）の人事異動の内申を行った。

### (2) 健 康 管 理

教職員の疾病の早期発見・予防指導のために、定期健康診断、指定年齢健診などを行うとともに、心の健康増進を図るため、小・中学校の教職員を対象に「ストレスチェック」を実施した。

また、高ストレス者には専門医との面談を行う体制を整えることで、教職員の疾病予防に努めた。

### (3) 研 修

教職員研修センターが進める研修会及び個別訪問支援により、小・中学校に勤務する教職員の資質向上を図った。

### (4) 教科指導研究

小・中学校の教職員から選任した教科等ごとのチームで教科指導研究を推進し、年度末に研究の成果を教職員ポータル上に公開し、職員間で情報共有を図った。

本年度は各研究チームにおいて、学習指導要領の改定の趣旨を踏まえた研究を行った。

## 6 児童生徒の教育・健康管理

児童生徒の創意工夫、想像力の育成を図るため、小・中学校美術展を学校ごと開催した。

児童生徒をとりまく環境の変化に対応するため、教育委員会が作成した性教育に関する手引書「自らの生き方を考える」をもとに、各学校で性教育を行った。

児童生徒の体力づくりを進めるため、新体力テスト（4月～10月）、中学校体育大会（6月～7月）など各種の体育行事を実施した。

健康管理については、学校医、学校歯科医、学校薬剤師を委嘱し、児童生徒の疾病の予防指導、治療の奨励を行うとともに、結核検診、尿検査、心臓疾患の検査及び生活習慣病予防検診を実施した。

## 7 スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの配置

児童生徒が心の悩みや不安、ストレスなどを和らげ、心にゆとりをもって安心して学校生活

を送れるようにするために、全小・中学校にスクールカウンセラーを配置した。

また、学校生活や生活環境等に悩みを抱える児童生徒及び保護者を支援するため、スクールソーシャルワーカー3人を配置した。

## 8 学校給食

学校給食を学校教育の一環としてとらえ、児童生徒の健康増進と豊かな人間性形成を目指して、家庭との連携を取りながら望ましい食習慣の育成に努めた。

給食指導、栄養管理、衛生管理については、研修会などを実施し、栄養教諭、学校栄養職員、調理師等の資質の向上と業務の円滑な推進に努めるとともに、食育の視点から、学校給食における地場産物の活用を図った。

また、学校給食会計を公会計化し、教職員等の負担軽減を図り、よりよい教育環境の構築に努めた。

## 9 特別支援教育

心身に障がいのある幼児児童生徒に対し、就学支援委員会の適正な就学支援を実施し、知的障害学級、自閉症・情緒障害学級、通級指導教室において、障がいの種類、程度により個に応じたきめ細かな指導を行った。

また、臨床心理士等を含む専門家チームが小・中学校を巡回し、教職員や保護者の相談に応じるなどして、支援の充実を図った。

## 10 幼児教育

市内の幼稚園・保育園・認定こども園の連携を高め、相互理解の促進、連携の充実を図ると共に、保育の質や保育士の資質の向上を目的として、「沼津市幼児教育研究協議会」に補助を行った。

また、「一定の所得未満の世帯」及び「第3子以降の世帯」の3歳から5歳児までの子どもの副食費について、本市独自の軽減施策として、国の基準を上回る補助等を実施した。

このほか、私立幼稚園の教職員の資質向上を図るため、4園に補助し、幼児教育の振興支援を行った。

## 11 育英奨学金

沼津市育英条例に基づき、奨学生選考委員会を開催して、新たに10人を選考した。その結

果、1人月額1万円の奨学金を39人の大学生に交付して勉学の奨励に努めた。

## 12 児童生徒の安全指導

小・中学校では、学級活動などの時間を利用して、通学路の確認や自転車の乗り方などの交通マナー教育を行い、安全指導の徹底を図った。

また、地域や関係機関との連携を図り、児童生徒の安全確保に努めた。

沼津市通学路安全推進連絡協議会において、安全対策を専門とする有識者から助言を得ながら、関係機関と連携して通学路の安全対策を講じた。

## 13 隣接校選択制度

小・中学校入学時及び転入・転居の際に、居住地のある通学区域の学校以外に、隣接する学校も選択できる隣接校選択制度は、小学校入学児童1,181人のうち82人、中学校入学生徒1,481人のうち80人が利用した。

## 14 小中一貫教育

全小・中学校（中等部を除く）を「併設型小学校・中学校」とし、既存の小学校及び中学校の基本的な枠組みは残したまま「義務教育9年間で子どもを育てる」ことに重点を置く小中一貫教育を推進した。義務教育9年間の系統性を確保した教育課程の編成・実施や、小中合同の会議・研修、中学校区単位での地域連携、小中乗り入れ授業等の教育活動に取り組んだ。

## 第4節 社会教育

### 1 社会教育委員会

教育委員会の委嘱により、社会教育に関する調査・研究・検討や諮問に対する答申、意見具申などを行う、10人の委員からなる諮問機関であり、本年度は、7月に教育委員会から諮問された「地域のつながりによる家庭教育支援について」への答申に向けて調査や検討を重ねるとともに、各種研修会にも参加した。

### 2 生涯学習

市民の学習に対する意欲を支え、学習の場を提供するとともに、生涯学習を基幹とした社会教育活動を推進した。

#### (1) 生涯学習の推進

「生涯学習情報コーナー」（市立図書館内に設置）において、県内の市町情報のほか、生涯学習についての各種情報を提供した。

##### ア 学習情報の提供

さまざまな学習情報を広く市民に提供するため、生涯学習情報紙「さんさんだより」を偶数月500部発行し、市内各連合自治会、地区センター等に配布した。

##### イ 生涯学習推進イベントの開催

市民の生涯学習活動の成果を発表する場を提供するとともに、生涯学習の啓発と普及を図るため、「第30回さんさん学習フェスティバル」を開催した。

参加団体 35団体・個人      来場者数 1,602人

#### (2) 地域における生涯学習の推進

コミュニティ単位に設置している「生涯学習地域推進員」と連携を図りながら、地域における学習活動を推進した。

##### ア 地域学習講師の派遣

各地域の団体やグループの学習活動を支援するため、その学習に合った講師や指導者を派遣し、地域学習を支援した（派遣回数2回）。

##### イ 出前講座

市民の学習ニーズに応えるため、市職員を講師として派遣する出前講座を開催し、学習機会の拡大を図った。

講座数	72講座	開催数	46回
		受講者数	3,291人

#### ウ まちの識者

特技や知識を持っている方々を「まちの識者（地域学習指導者）」として人材登録し、市民からの学習指導者紹介の要請に応じた。

登録者	延べ122人	紹介件数	25件
		受講者数	769人

#### エ イングリッシュデビュー事業

英語の習得には乳幼児期から英語に慣れ親しむことが重要であることから、英語に触れるきっかけづくりとして、0～3歳児とその保護者を対象とした英語教室を開催した。

開催数	14回	受講者数	延べ581人（255組）
-----	-----	------	--------------

また、4歳児から小学校低学年児童とその保護者を対象に、親子で英語を使ってコミュニケーションを図るプログラムを実施した。

#### オ 地域学校協働本部

地域総がかりで子どもたちの学びや成長を支える協働活動を推進するため、第五・大岡の各中学校区に加え、片浜・静浦の各中学校区に地域学校協働本部を設置し、コミュニティ・スクールとの連携を図った。

### 3 成人教育

#### (1) 市民大学

「豊かな未来をひらく」をメインテーマとして、価値観が多様化する現代社会の中で、市民の生涯学習活動を助長することを目的として、講師を招き、広い視野と新たな視点を提供した。

	日 程	テ ー マ ・ 講 師	出席者数 (人)
1	7.23	人生100年時代の栄養学 帝京平成大学健康メディカル学部 准教授 野口 律奈	259
2	8.9	コロナ新時代に生きるヒント 東京大学名誉教授 養老 孟司	451
3	8.14	方言萌えの時代―“方言”の価値の変遷をたどる― 日本大学文理学部 教授 田中ゆかり	174
4	10.10	高尾山古墳出現の意味を考える 大阪府立弥生文化博物館 館長 禰宜田佳男	171
			延べ 1,055

## (2) 高齢者教育

生涯学習の一環として、高齢者が心豊かに明るく健康な生活を送るとともに、仲間と語り合い、生きがいを求める場として、65歳以上の市民を対象とした高齢者学級を開設した。

開設学級 万年青大学5学級

寿大学16学級（愛鷹、原、浮島、日枝、大岡、内浦、橘西浦、香南、我入道、  
第三中、大平、金岡、片浜東部、片浜西部、今沢、門池）

期 間 4月～5月及び11月～令和4年1月

学級生数 1,278人 学習回数 各大学とも月1回

また、学習のほかクラブ活動として、体力づくり、ダンス、詩吟、コーラス、俳句ほかを大学ごとに自主的に行った。

## (3) 家庭教育

### ア 家庭教育講座

幼児期から思春期までの子どもの心身の発達や親の望ましいあり方等について学ぶ自信がもてる子育て講座を開催した。

開催数 6回 受講者数 延べ241人

### イ 家庭教育講座支援事業

すべての教育の原点である家庭教育力向上を目的として開催される、家庭教育に関する学習会へ講師を派遣した。

派遣回数 5回

## 4 青少年対策

### (1) 青少年問題協議会

青少年対策にかかわりのある機関・団体及び行政の代表13人で構成されている青少年問題協議会を年2回開催し、青少年の社会参画について意見交換を行った。

### (2) 青少年を健やかに育てる会

青少年健全育成を主眼に、地域組織として18地区に設置されている「青少年を健やかに育てる会」は、育成部・補導部により積極的な地域ぐるみの活動を行い、青少年の健全育成と非行・被害防止に努めた。

### (3) 青少年健全育成啓発事業

市民が青少年問題に対する関心を深め、青少年の健全育成を推進するために、「青少年を健やかに育てる会」及びその他の関係機関と緊密な連携を保ちながら青少年健全育成啓発事業を行った。

11月の「子供・若者育成支援強調月間」には、沼津駅周辺での街頭キャンペーンを実施し、さらに広報活動を通して青少年健全育成の啓発に努めた。

また、児童生徒が通学路や遊び場等で危険に遭遇した時、すぐに助けを求められる場所として「こどもかけこみ110番の家」（令和4年3月31日現在2,278か所）を設置した。

### (4) 青少年育成推進員制度

各地区の「青少年を健やかに育てる会」から推薦された320人で構成され、「青少年を健やかに育てる会」の中核的な推進役として、地域の青少年の育成や地区行事等で活動した。

### (5) 青年教育推進事業

青年が個人の教養や技術を身につけるとともに、地域での社会貢献の意識を高めることを目的として、教養講座や交流活動を実施した。

### (6) 二十歳の集い

市内17会場で式典を開催するとともに、新成人が投稿する公式インスタグラムを開設したほか、著名人等のメッセージ動画を配信して新成人を祝った。

また、20歳となった若者たちに責任ある大人としての自覚と市政への関心を喚起するため、二十歳の集いの記念事業として第24回新成人議会を開催し、18人の新成人議員が出席した。

### (7) わたしの主張大会

市内の中学生が家庭、学校、郷土（地域）、友人、将来のこと、あるいは、自分の体験や日頃考えていることを発表する場として第40回大会を開催し、市内19中学校から校内審査に

より選ばれた19人が発表した。

(8) 高校生しゃべり場 in めまづ

各高校の代表生徒に日頃感じていることや意見を自由に発言する場を提供することで、高校生の社会参加のきっかけを作るとともに、生徒自身の社会に対する意識の高揚を図り青少年の健全育成を促すことを目的として、ディスカッション方式で開催した。第9回となる本年度は、12人の高校生により、「高校生一人一人が想うSDGs～豊かな自然・環境と共生する持続可能なまちづくり～」をテーマに活発な意見交換が行われた。

(9) 青少年体験学習推進事業

幅広い分野での体験の機会を設け、参加者の自ら学び考える力や様々な物、事への興味・関心・意欲の向上を図ることを目的に、学校や家庭ではできない体験活動を実施した。

開催数 2回 参加者数 47人

(10) 青年団体の育成及び青少年育成団体との連携

沼津市子ども会育成連絡協議会等と常に緊密な連携を保ちながら青少年の健全育成を図った。

(11) 子どもの居場所づくり推進事業

行政、学校、放課後児童クラブ、児童福祉、社会教育の関係者や地域住民の代表などの委員で構成される「放課後子ども総合プラン運営委員会」を設置し、「放課後児童クラブ」と「放課後子ども教室」との関連や活動場所、人材確保など本市における「放課後子ども総合プラン」等について協議をし、「放課後子ども教室」を市内5か所の小学校にて実施した。

## 5 青少年教育センター

(1) 補 導

ア 中央補導

繁華街での補導を強化するため、各小・中・高等学校、地区補導委員代表者及び警察署等と連携を保ちながら計画的な街頭補導を実施した。

イ 地区補導

市内全域の補導強化を図るため、18地区の「青少年を健やかに育てる会」から推薦された少年補導委員により、それぞれ地区の実情に合った補導を実施した。

機関・団体別少年補導委員数

機関・団体名	委員数
小 学 校 教 員	20 人
中 学 校 教 員	18
高 等 学 校 教 員	24
各地区青少年を健やかに育てる会	228
計	290

街頭補導実施状況

実施回数	補導委員従事延べ人数	声かけ、注意、指導 した少年	事後指導（家庭・学校・ 他機関への連絡）
385 回	2,109 人	1,737 人	人

街頭補導少年の学職別状況（中央補導・地区補導）

（単位 人）

区分		学職別	小学生	中学生	高校生	その他学生	有職少年	無職少年	計
		飲酒							
喫煙									0
薬物乱用									0
夜間はいかい									0
不良交友									0
怠学・怠業									0
ゲームセンター入場		16	94	487				6	603
パチンコ店入場									0
カラオケ店入場			2	6					8
自転車の暴走行為				2	2				4
自転車の二人乗り									0
自転車の無灯火			4	7		2			13
危険な遊び			2						2
その他		5		1					6
計		21	102	503	2	2	6		636
事後指導	家庭・学校・職場へ連絡								0
	他機関へ連絡								0
	計	0	0	0	0	0	0	0	0
愛の声かけ運動		507	410	184	0	0	0		1,101

※少年は20歳未満の者

(2) 環境浄化活動

有害図書の販売場所、ゲームセンター、カラオケ店及び公園・空き地等、青少年のたまり場や遊び場を見回することで、良好な環境の整備に努めた。

(3) 広報活動

非行・被害防止及び健全育成の啓発を図るため、青少年教育センターの機関紙「たより」の発行、関係機関や団体との情報交換を行った。

(4) 教育相談

面接相談と電話相談の各利点を生かして、児童生徒及び保護者の相談に応じた。教育相談の実績は、面接相談173件（延べ2,346回）、電話相談1,049件であった。

ア 相談指導学級

不登校の児童生徒の学校復帰や社会的自立を図るため、通級による指導を行った。

イ 面接相談

非行、不登校、発達・子育て、進路・適性、対人関係等の課題について、職員や臨床心理士、言語聴覚士により面接相談を通じて相談者自身による課題解決を支援した。また、本人や保護者との面接のほか、必要に応じて学校等への訪問を実施した。

相談内容・対象者別内訳

(単位 件)

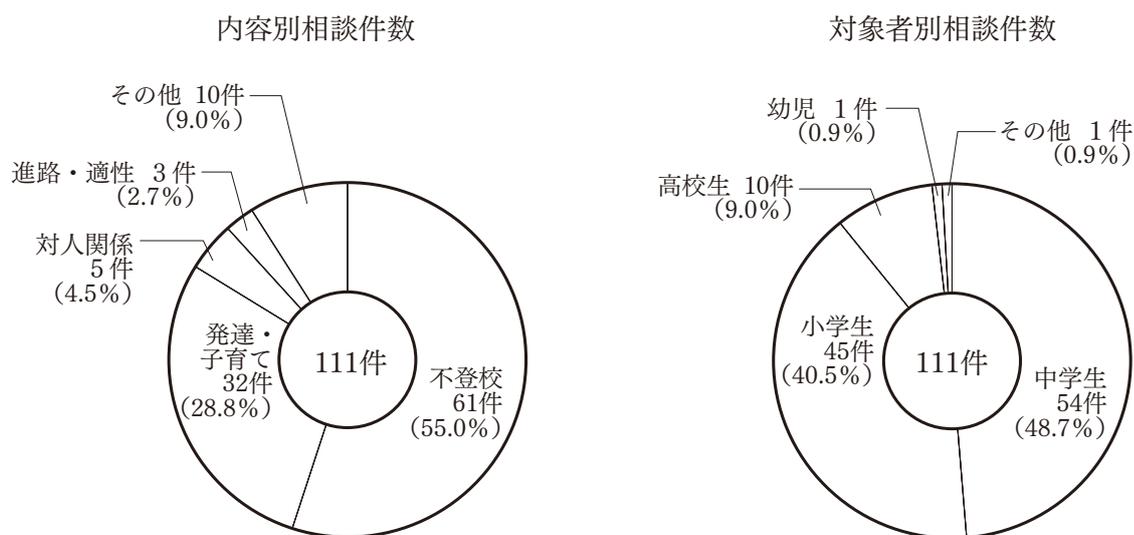
対象者	内容	非 行	不 登 校	発達・子育て	進路・適性	対人関係	そ の 他	計
幼 児				1				1
	新 規			1				1
小 学 生			33	34	1	2	2	72
	新 規		16	24	1	2	2	45
中 学 生			65	9		4	6	84
	新 規		40	6		2	6	54
高 校 生			7	2	1	2	2	14
	新 規		5	1	1	1	2	10
そ の 他				1	1			2
	新 規				1			1
本 年 度		0	105	47	3	8	10	173
	新 規	0	61	32	3	5	10	111

※対象者のその他……大学（短大）生・専門学校生・有職少年・無職少年など

※上段は相談件数

※下段は新規相談で上段の内数

[新規相談受理状況]



ウ 相談指導学級における教育相談教員研修

学校における複雑多様化した児童生徒の行動を理解し、課題の改善を図る手法として、「教育相談的かわり」のできる教員を育成することを目的に、教職員研修センターの主催する「若手教員研修」のうち相談指導学級における体験研修を行った。(受講者7人、年間7回)

エ 電話相談

「やまびこ電話」の愛称で呼ばれる電話相談では、電話を通して訴えられる青少年に関する多種多様な課題や悩みについて、17人(令和4年3月31日現在)の相談員が共に悩み考えながら解決へ向け支援した。

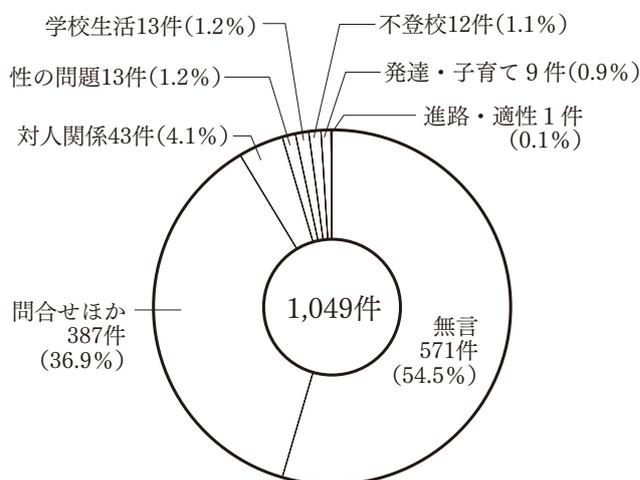
相談内容・対象者別内訳

(単位 件)

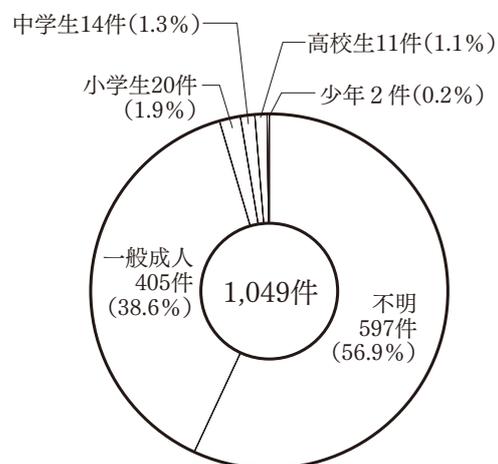
内容	乳幼児	小学生	中学生	高校生	少年	一般成人	不明	計
非行								0
不登校		3	8	1				12
発達・子育て		7	2					9
性の問題		1		6		4	2	13
進路・適性						1		1
対人関係		2		2		32	7	43
学校生活		7	4			1	1	13
問合せほか				2	2	367	16	387
無言	—	—	—	—	—	—	571	571
計	0	20	14	11	2	405	597	1,049

※少年は20歳未満の大学（短大）生・専門学校生・有職少年・無職少年

内容別相談件数



対象者別相談件数



## 6 芸術・文化振興

市民による自主的な芸術・文化活動を支援し、その成果を発表する場として、市民の参画により「第48回沼津市芸術祭」を開催した。

部門名	開催日・会場	内容
ぬまづ文芸	10.12 入賞者発表	出品総数 380点 随筆、詩、短歌、俳句、川柳の作品募集と作品集「ぬまづ文芸」の発行

- 5月に第39回ぬまづ茶会を御用邸記念公園で開催し、茶道文化の普及を図った。
- 山口源新人賞受賞者を講師に迎え、市内の高校や、大型商業施設で版画ワークショップを開催した。
- 12月に沼津御用邸記念公園 東附属邸において、「おやかで体験!! 和のおけいこ」を開催し、着付け・舞踊と茶道の2教室を開催した。
- まちなかコンサート  
芸術文化の振興と市のにぎわいづくりを目的に音楽コンサートを開催した。

内容	開催日	会場	参加人数
ギャラリーでクラシック演奏会	10.7	ギャラリーほさかアートスペース	49人

## 7 市史編さん

市の歴史を明らかにする貴重な史・資料を整理・保存した。市史の構成は次のとおりである。

- 沼津市史  
「通史編」「資料編」「史料編」「別編」「通史別編」
- 戸田村史  
「通史編」「民俗編」

## 8 文化財

郷土の文化遺産の保護・継承のため、文化財の調査・整理及び保存に努めたほか、文化財の愛護思想を啓発するため、個人でまわる文化財めぐりを実施した。出前講座は8回開催し、375人の市民が聴講した。また、文化財保護審議会を2回開催し、市の指定文化財の指定に関することなどを審議した。

埋蔵文化財発掘調査関係の主な事業は、中原遺跡埋蔵文化財発掘調査受託事業ほか5事業で

あった。

また、史跡等保全整備事業として高尾山古墳出土遺物レプリカ作成や市内巡回展の開催、大瀬崎ビャクシン樹林及び興国寺城跡の保存活用計画策定、戸田松城邸の保存修復等を行った。

そのほか、愛鷹山麓に分布する古墳群をテーマに富士市との共催で実施した文化財講座を始めとして、文化財まちあるきマップの作成や小中学校にデジタルコンテンツを提供する等の文化財活用推進事業を行った。

## 9 社会教育施設

### (1) 若山牧水記念館

公益社団法人沼津牧水会を指定管理者として、歌人若山牧水の業績の顕彰と沼津の文学風土を紹介することを目的に、文学資料の保存や調査・研究を行うとともに、講座・講演等を開催し、広く市民の教養・文化の向上に努めた。

#### ア 事業

##### (ア) 講座・講演等

- 「初心者のための短歌講座」、「牧水記念館短歌会」

4月～令和4年2月 参加者 合計214人 講師 永久保 英敏

(公益社団法人沼津牧水会理事)

- 「中学生短歌コンクール」

募集期間 5月1日～7月31日

応募短歌 19校 1,758首 入選短歌54首

- 「短歌大会」

10月3日 講師 谷岡 亜紀（「心の花」選者、第25回若山牧水賞受賞者）

応募短歌 105首 参加者58人

- 「第34回 雛の歌会」

令和4年3月12日 講師 小島 なお（コスモス短歌会所属）

応募短歌 68首 参加者38人

##### (イ) 調査・研究

牧水顕彰のための調査・研究を行い、関係資料の収集に努めるとともに、館報の作成に活用した。

(ウ) 若山牧水記念館館報の刊行

「沼津市若山牧水記念館」館報（年2回）を刊行し、市民への啓発を行った。

第67号（9月1日）

第68号（令和4年3月1日）

イ 企画展示

○ 静岡県内にある「牧水歌碑展」（令和4年2月8日～3月27日）

ウ 入館者数と開館日数

月	入館者数	開館日数	月	入館者数	開館日数		
4	185 <sup>人</sup>	26 <sup>日</sup>	10	277 <sup>人</sup>	27 <sup>日</sup>		
5	231	26	11	302	25	入館者数	2,816人
6	186	26	12	269	27	開館日数	311日
7	230	27	4.1	188	24	1日平均	9.1人
8	231	26	4.2	219	24	入館者数	
9	198	26	4.3	300	27		

(2) 歴史民俗資料館

郷土の歴史・民俗資料の収集、保管、調査・研究を行い、企画展や講座を開催し、市民文化の向上と発展に努めた。

ア 歴史民俗資料館協議会

館の円滑な運営を図るため、委員6人による協議会を3回開催し、館の運営計画や展示計画、PR方法などについて協議した。

イ 事業

(ア) 国重要有形民俗文化財の「沼津内浦・静浦及び周辺地域の漁撈用具」（2,539点）の指定報告書解説編の作成を進めた。

(イ) 調査・研究活動として、民俗、古文書等の収蔵資料の整理を実施した。

(ウ) 普及活動として、「資料館だより」、「沼津内浦・静浦及び周辺地域の漁撈用具Ⅲ（概要）2」、「沼津市博物館紀要46」（明治史料館と共同）を刊行した。

(エ) 8月6・7日、体験学習「昔の道具を使ってみよう」を開催した。（参加者21人）

ウ 展示

(ア) 常設展

1階展示室に「内浦湾の漁法と漁具」、2階展示室に「生活用具とものづくり」、「沼津

の漁業」を展示した。

(イ) 企画展

○ 国指定漁具コレクション「地先の漁」を開催した。(4月1日～5月9日)

○ 国指定漁具コレクション「生魚、走ル!～沼津の海産物輸送と交易～」を開催した。

(令和4年2月5日～3月31日)

エ 入館者数と開館日数

月	入館者数	開館日数	月	入館者数	開館日数		
4	1,209 <sup>人</sup>	24 <sup>日</sup>	10	1,535 <sup>人</sup>	19 <sup>日</sup>		
5	2,046	25	11	2,905	22	入館者数	20,366人
6	1,572	25	12	2,484	23	開館日数	251日
7	1,474	26	4.1	1,372	23	1日平均	
8	1,447	16	4.2	1,852	22	入館者数	81.1人
9	0	0	4.3	2,470	26		

(3) 明治史料館

江原素六及び沼津兵学校の関係資料を中心に常設展示を行うとともに、地域の歴史資料の調査・収集・保存をし、企画展をはじめ、講座の開設、資料の整理・出版活動を通じて、市民文化の向上と発展に努めた。

ア 明治史料館協議会

館の円滑な運営を図るため、委員10人による協議会を3回開催し、運営及び事業計画などについて協議した。

イ 事業

(ア) 古文書解読入門講座

10・11月土曜日(計5回)開催。古文書を初めて読む市民を対象に、くずし字などの解読力を養う講座を行った。

(イ) 古文書等整理実践講座

5月から毎月第3土曜日を開催日とし、年間6回開催。館所蔵の資料を実際に整理・保存する方法を学び、また古文書資料を翻刻して研究・展示等に役立てる講座を行った。

(ウ) 高校生のための一日学芸員体験講座

8月5日、「学芸員」という仕事を体験することによって、高校生が歴史や博物館などに対する興味を持つとともに、進路を決める際の参考になるよう開催した。

(エ) 戦争史跡めぐり

8月9日・11日、小学生とその保護者を対象に、地域の歴史学習の場を提供した。

(オ) 聞いて・みて・考えよう 私たちが住むまちの戦争のこと

8月12日、戦争史跡の見学や戦争体験者の話を聞く小学生歴史教室を開催し、沼津の戦争について学ぶ機会を提供した。

(カ) 戦争体験を記録する会

毎月第2土曜日を開催日とし、年間7回開催。市民の戦争体験を記録した。

(キ) 出版活動

館報である「明治史料館通信」(年4回)を刊行し、博物館活動への理解向上を図ったほか、歴史民俗資料館と共同で「沼津市博物館紀要46」を刊行した。

(ク) 江原素六学習作品展

江原素六の功績に対し感謝と理解を深めるため、地元小学校児童の作品を展示した。

(ケ) 明治史料館ギャラリートーク2021

毎月第2土曜日を開催日とし、年間7回開催。職員が参加者と対話しながら解説した。

ウ 展 示

(ア) 常 設 展

3階北側は「江原素六」、南側は「沼津の歴史」、4階は「沼津兵学校」を展示した。

(イ) 企 画 展

○ 「地域の歴史シリーズ2 かなおか」(11月13日～令和4年1月30日)

○ 江原素六生誕180周年・没後100周年記念特別展

「素六が翔ぶ 江原素六の生涯と功績」(令和4年2月11日～3月31日)

エ 入館者数と開館日数

月	入館者数	開館日数	月	入館者数	開館日数		
4	257 <sup>人</sup>	24 <sup>日</sup>	10	709 <sup>人</sup>	26 <sup>日</sup>		
5	373	21	11	269	13	入 館 者 数	4,228人
6	169	18	12	255	23	開 館 日 数	262日
7	498	26	4.1	325	23	1 日 平 均	16.1人
8	533	25	4.2	165	13	入 館 者 数	
9	115	24	4.3	560	26		

(4) 戸田造船郷土資料博物館

幕末に日本に来航して駿河湾で沈没したロシアの軍艦ディアナ号、その代船として建造されたヘダ号関係の資料、戸田の漁業や廻船業などの郷土資料を展示・収集した。

ア 戸田造船郷土資料博物館協議会

館の運営の円滑化を図るために、委員6人からなる協議会を2回開催し、館の展示計画や広報活動、資料収集活動のあり方について協議した。

イ 事業

博物館だよりの発行

博物館への関心を高め、博物館の活動について住民に知らせるための博物館だよりを発行し、戸田地区内回覧及び各窓口事務所等に配布した。

ウ 展示

大名びな展（4月1日～7月25日）

写真で見る戸田今昔物語展（7月26日～令和4年1月31日）

戸田から見た富士山と花写真展（令和4年2月1日～2月28日）

エ 入館者数と開館日数

月	入館者数	開館日数	月	入館者数	開館日数		
4	480 <sup>人</sup>	26 <sup>日</sup>	10	501 <sup>人</sup>	27 <sup>日</sup>		
5	644	27	11	690	26	入館者数	6,640人
6	343	25	12	587	24	開館日数	308日
7	517	27	4.1	617	25	1日平均	21.6人
8	698	28	4.2	535	24	入館者数	
9	365	24	4.3	663	25		

(5) 庄司美術館（モン ミュゼ沼津）

NPO法人沼津文化協会を指定管理者として、寄贈された美術品による常設展や月替わりの企画展を行い、市民に美術鑑賞の場を提供した。

ア 庄司美術館運営委員会

美術館の適正な運営を図るため、委員9人による運営委員会を2回開催し、運営及び展示計画などについて協議した。

イ 展 示

期 日	1 階 展 示 室	2 階 展 示 室
4.3～4.25	石井シュクリシュナ展 ～Three Primary Colors～	切り絵屋梨々 朱華色の切り絵展
5.1～5.30	市場勇太・市場良子染色作品展	
6.12～7.4	吉川量子 油彩	由三蔵 墨水面
7.10～8.1	木村若菜 chronicle展	
8.7～8.29	笠井邦治 写真展 華美・はなび・HANABI	大久保澄子と世界を繋ぐ仲間たち —東京タワーを描く（和出祭）—
9.4～9.26	熔融－相変化 望月厚介作品展	小原榮作品展
10.2～10.24	須永祥雍展	杉田君子作品展
10.30～11.28	静岡県立沼津西高等学校 芸術科美術専攻OB Exhibition～あの時思い描いていた私 今の私～	
12.4～12.23	杉山彰作品展	中野清光・一枝作品展
4.1.4～1.16	美術館を彩った作家達2022 寄贈作品展	
4.1.22～2.13	山口源賞大賞新人賞受賞作品展	芸術支援事業 書道展、現代いけばな展、美術展
4.2.19～3.13	和田孝之書作展	宮田不二子油彩画展

ウ 入館者数と開館日数

月	入館者数	開館日数	月	入館者数	開館日数
4	799 <sup>人</sup>	20 <sup>日</sup>	10	570 <sup>人</sup>	22 <sup>日</sup>
5	439	26	11	353	22
6	328	16	12	419	17
7	393	23	4.1	432	20
8	309	21	4.2	596	18
9	426	19	4.3	353	12

入 館 者 数 5,417人  
 開 館 日 数 236日  
 1 日 平 均  
 入 館 者 数 23.0人

(6) 芹沢光治良記念館

平成21年4月1日に一般財団法人井上靖文学館（現長泉町井上靖文学館）から資料及び建物の寄附を受け、同年10月1日に芹沢光治良記念館として開館した。本市生まれの作家芹沢光治良の関係資料を整理・収集・保存し、企画展示を行うとともに、2階展示室を市民ギャラリーとして沼津の文化に関する企画展示を一般公募するなど、市民文化の向上と発展に努めた。

ア 芹沢光治良記念館懇話会

館の円滑な運営を図るため、委員5人による懇話会を2回開催し、運営方法及び事業計画などについて参考意見を聴取した。

イ 事業

(ア) 資料整理・保存

芹沢光治良関連資料のデータベース化と適正保存を進めるために、資料目録の点検、補填など、資料の整理及び保存の処理を行った。

(イ) 各種広報活動

当館周知のためのポスター及びチラシ等を作成し、市内小中学校等の教育機関、各自治会及び主要文化施設に配布した。また各イベント会場へ出向き、同様に配布した。

(ウ) 教育普及

企画展展示説明会等を実施した。

事業名	内容	期日	備考
展示説明会	芹沢光治良生誕記念企画展光治良と沼中・東高（第2回）展示説明会	5.4	全3回実施 参加者計17人
刊行図書	沼津市芹沢光治良記念館資料集第2集 「沼津市芹沢光治良記念館 企画展のあゆみ」	12.15	改訂版館内にて一般頒布

## ウ 展 示

### 企画展

- 光治良と沼中・東高（第2回）（4月1日～5月30日）
- 『人間の運命』とその時代（第1回）（6月15日～11月30日）
- 『人間の運命』とその時代（第2回）（12月15日～令和4年3月31日）
- 静岡県文化奨励賞受賞記念特別展「こんなことしてきました。～芹沢光治良記念館  
カッドウのあれこれ～」（4月1日～8月29日）

### エ 入館者数と開館日数

月	入館者数	開館日数	月	入館者数	開館日数		
4	262 <sup>人</sup>	25 <sup>日</sup>	10	362 <sup>人</sup>	27 <sup>日</sup>		
5	370	26	11	279	23	入 館 者 数	3,111人
6	87	14	12	136	12	開 館 日 数	279日
7	299	27	4.1	158	24	1 日 平 均	
8	310	26	4.2	208	23	入 館 者 数	11.2人
9	256	25	4.3	384	27		

## 10 社会体育

生涯スポーツの振興のため、各種スポーツ大会等の開催のほか、小・中学校の体育施設の開放を推進するとともに、NPO法人沼津市スポーツ協会、沼津市スポーツ推進委員連絡協議会、同各地区体育委員会、同スポーツ少年団、県市町対抗駅伝競走大会沼津市実行委員会の活動助成に努めた。

また、沼津市スポーツ推進基本計画（平成26年度～令和5年度）の後期推進計画（令和元年度～5年度）に基づきスポーツ振興にかかる事業を行った。

(1) スポーツ大会等開催事業

名 称	実施時期	概 要
第62回沼津市 町別ソフトボール大会	4.11・18・25	30歳以上の男性及び高校生以下を除く女性が、ソフトボールを楽しむ中で、体力づくりと健康の増進を図り、試合を通して相互の親睦を深めた。(参加52チーム)
第66回 千本浜ファミリー マラソン大会	11.14	市民の健康増進と体力づくりを目的に、千本浜防潮堤を利用して、誰でも気軽に参加できるマラソン大会を実施した。(参加者311人)
第68回 沼津市駅伝競走大会	4.1.16	職場スポーツの普及と青少年の体力増強を図ることを目的に、愛鷹広域公園周回コースで実施した。(参加58チーム)
第75回 沼津市スポーツ祭	通 年	各種スポーツの普及と底辺拡大を図るため、スポーツ協会の協力のもと当市最大のスポーツ大会を実施した。(陸上競技ほか18種目)

(2) スポーツ指導者バンク事業

市民のスポーツ振興と健康増進を図るため、自主的にスポーツを通じた健康づくり活動に取り組む団体等に対し、スポーツ指導者を派遣したほか、指導者の資質向上に取り組んだ。

○登録指導者数 51人

(3) アスリート連携事業

本市のスポーツ振興の基本理念の一つである「みるスポーツ」を推進するため、トップアスリート教室としてアスル全力教室のほか、本市にゆかりのあるトップアスリートによる教室を開催した。

(4) 学校体育施設利用推進事業

地域スポーツの振興を図るため、小・中学校の体育施設を地域住民のスポーツの場として開放し、市民の健康の維持・増進と体力づくりを図った。

学校体育施設利用状況

		運動場（夜間）	運動場（昼間）	体育館（夜間）	体育館（昼間）
小学校	日数	243 日	1,647	2,263	2,290
	人数	3,289 人	58,992	29,445	50,456
中学校	日数	463 日	100	2,210	83
	人数	5,560 人	1,896	34,462	1,545
小中 一貫 学校	日数	— 日	—	278	27
	人数	— 人	—	3,205	313
計	日数	706 日	1,747	4,751	2,400
	人数	8,849 人	60,888	67,112	52,314

(5) 屋外運動場夜間照明施設整備事業

地域スポーツの振興を図るため、小・中学校等に設置してある夜間照明施設の点検及び修繕を行った。

(6) スポーツ広場整備事業

地域住民の健康・体力づくりのため、自治会が借り上げた遊休地等の土地に、申請に基づきグラウンド砂の補充を行った。

(7) 地域体力づくり教室運営事業

身近な施設でたくさんの仲間とふれあいながら、健康・体力づくりができるように各種の教室を地区センターなどを会場に開催した。

ア 地域体力づくり教室

教室名		会場	定員 (各期)	期・回数	参加人員	対象者
女性体操教室	Aコース	原地区センター	35 <sup>人</sup>	3期延べ22回	559 <sup>人</sup>	18歳以上の女性
	Bコース		35	3期延べ22回	363	
ふれ愛体操教室	水曜日コース		50	3期延べ28回	813	60歳以上の人
	木曜日コース		50	3期延べ29回	679	
ふれ愛体操教室	Aコース	大平地区センター	20	3期延べ28回	151	60歳以上の人
	Bコース		20	3期延べ28回	355	
男性健康づくり教室			20	3期延べ28回	355	18歳以上の男性
ふれ愛体操教室		静浦地区センター	30	3期延べ30回	470	60歳以上の人
ふれ愛体操教室		浮島地区センター	25	3期延べ28回	250	60歳以上の人
ふれ愛体操教室		戸田B&G海洋センター	40	3期延べ30回	347	60歳以上の人
ふれ愛体操教室		愛鷹地区センター	25	3期延べ28回	449	60歳以上の人
ふれ愛体操教室	水曜日コース	第三地区センター	35	3期延べ28回	414	60歳以上の人
	木曜日コース		35	3期延べ27回	690	
男性健康づくり教室		片浜地区センター	30	3期延べ26回	412	18歳以上の男性
からだづくり教室		第五地区センター	30	3期延べ27回	558	18歳～59歳の人
ふれ愛体操教室			30	3期延べ29回	480	60歳以上の人
たのしいヨガ教室			30	3期延べ28回	416	18歳以上の人
からだづくり教室		門池地区センター	30	3期延べ27回	174	18歳～59歳の人
ふれ愛体操教室	Aコース		30	3期延べ30回	539	60歳以上の人
	Bコース		30	3期延べ30回	518	
ふれ愛体操教室	水曜日コース	今沢地区センター	20	3期延べ28回	500	60歳以上の人
	木曜日コース		20	3期延べ29回	434	
ふれ愛体操教室		大岡地区センター	25	3期延べ29回	539	60歳以上の人
からだとのえ運動教室		内浦地区センター	30	3期延べ30回	622	40歳以上の人
たのしいヨガ教室		第二地区センター	25	3期延べ28回	435	18歳以上の人
からだバランス教室			25	3期延べ28回	169	18歳以上の人
からだバランス教室		第一地区センター	10	3期延べ30回	226	18歳以上の人
計					11,917	

イ 短期講座

講座名		定員	開催日	参加人員	対象者
なつ短期講座	コンディショニングヨガ	24	7.20・27 8.3	33 <sup>人</sup>	18歳以上の人
	ZUMBA（ズンバ）	24	7.21・28 8.4	43	
	美ボディエクササイズ	24	7.29 8.5・12	39	
	リフレッシュヨガ with ストレッチポール	24	7.30 8.6・13	34	
	小計	96		149	
ふゆ短期講座	ベリーダンスで歪み改善	24	4.2.9・ 16	23	18歳以上の人
	ストレッチポールで 全身リラックス	24	4.2.10・ 17	30	
	小計	48		53	
合計				202	

(8) 沼津市民屋内温水プール利用料金助成事業

屋内温水プールの廃止に伴い、プールを活用した市民のスポーツをする意識及び機会の維持を目的として、市が指定した屋内温水プールを利用した市民に対し、利用料金の一部を助成した。

## 第5節 自然体験施設

### 1 ゆめとびら舟山

自然体験施設として、青少年の健全育成を図るための集団宿泊生活や野外活動など年間利用者数は9団体延べ231人であった。

#### (1) ゆめとびら舟山運営審議会

沼津市校長会、沼津市スポーツ少年団、戸田観光協会代表などの7人により構成され、施設の利用促進、今後の活用の方策などについて審議した。

#### (2) 利用状況

##### ア 月別

月 区分	4	5	6	7	8	9	10	11	12	4.1	4.2	4.3	計
団体数		1					1	2	3	1	1		9 <sup>団体</sup>
実人員		35					5	10	97	4	10		161 <sup>人</sup>
延べ人数		105					5	10	97	4	10		231 <sup>人</sup>
開所日数	26	26	26	27	26	26	27	25	24	24	24	27	308 <sup>日</sup>
利用率	0.0	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.4	4.0	0.2	0.4	0.0	0.8 <sup>%</sup>

$$\text{※利用率} = \frac{\text{延べ人数}}{\text{宿泊定員 (100人)} \times \text{開所日数}} \times 100$$

##### イ 団体別

団体 区分	幼・保	小学校	中学校	高等学校 各種学校等	スポーツ 少年団等	その他	計
団体数					1	8	9 <sup>団体</sup>
実人員					35	126	161 <sup>人</sup>
延べ人数					105	126	231 <sup>人</sup>

## 第6節 体 育 施 設

### 1 市民体育館

#### (1) 市民体育館運営審議会

市民体育館利用者代表等からの委員（定員15人以内）により構成され、1回の会議を開催し、市民体育館の運営について審議した。

#### (2) 開 催 事 業

##### 体力づくり教室

教 室 名		定員 (各期)	期・回数	参加人員	対 象 者
親子体力 づくり教室	父子ふれあいコース(20組)	40 <sup>人</sup>	3期延べ30回	798 <sup>人</sup>	4・5・6歳児と保護者
	3歳コース(80組)	160	3期延べ30回	1,288	3歳児と保護者
	4・5・6歳コース(50組)	100	3期延べ30回	1,159	4・5・6歳児と保護者
小学生体育教室		30	3期延べ28回	380	小学1・2年生の児童
男性スポーツ教室		25	3期延べ28回	277	18歳以上の男性
女性体操 教室	月曜日コース	40	3期延べ29回	575	18歳以上の女性
	火曜日コース	100	3期延べ30回	1,285	
トレーニング教室		10	3期延べ27回	65	18歳以上の女性
女性フィットネス教室		35	3期延べ30回	409	18歳以上の女性
ボディバランス 教室	月曜日コース	30	3期延べ30回	581	18歳以上の人
	水曜日コース	30	3期延べ27回	484	
コンディショニング教室		20	3期延べ27回	335	18歳以上の人
ロコモ 予防教室	木曜日コース	30	3期延べ28回	781	50歳以上の人
	金曜日コース	30	3期延べ28回	620	
脚力アップ教室		30	3期延べ27回	580	60歳以上の人
健康体操教室		70	3期延べ27回	722	60歳以上の人
計				10,339	

## (3) 利用状況

## ア 年度別利用状況

(単位 人)

年度	個人利用者	団体利用者	体力づくり 教室等利用者	スポーツ協会 スポーツ教室利用者	計
3	40,173	59,313	10,541	5,668	115,695
2	33,954	57,389	4,268	2,594	98,205

## イ 目的・種目別利用状況

区分	目的・種目	利用回数 (コマ数)	利用者数
個人利用	卓球	—回	19,354人
	トレーニング	—	16,812
	弓道	—	3,539
	その他(リズム体操・ダンス等)	—	468
	小計	—	40,173
団体利用	バレーボール	172	2,518
	バドミントン	726	10,263
	バスケットボール	319	5,461
	テニス(硬式・ソフト)	208	1,446
	卓球	132	4,817
	フットサル	290	4,562
	剣道・居合道・柔道	202	3,307
	合気道・空手・太極拳	671	9,686
	その他(リズム体操・ダンス等)	1,019	13,847
	会議室	248	3,406
小計	3,987	59,313	
体力づくり教室等	体力づくり教室(16教室)	455	10,339
	トレーニング指導(利用者講習)	33	200
	体力測定・診断	1	2
	小計	489	10,541
スポーツ教室	スポーツ教室(17教室)	386	5,668
合 計			115,695

## 2 勤労者体育センター

### (1) 開催事業

#### 体力づくり教室

教室名		定員 (各期)	期・回数	参加人員	対象者
女性体操教室	水曜日コース	80 <sup>人</sup>	3期延べ30回	990 <sup>人</sup>	18歳以上の女性
	木曜日コース	80	3期延べ30回	862	
健康体操教室		80	3期延べ30回	705	60歳以上の人
計				2,557	

### (2) 利用状況

#### ア 年度別利用状況

(単位 人)

年度	区分	個人利用者	団体利用者	体力づくり教室 利用者	スポーツ協会 スポーツ教室利用者	計
3		2,766	17,134	2,557	413	22,870
2		2,314	16,844	1,303	172	20,633

イ 目的・種目別利用状況

区 分	目 的 ・ 種 目	利用回数 (コマ数)	利用者数
個 人 利 用	卓 球	— 回	2,763 人
	そ の 他	—	3
	小 計	—	2,766
団 体 利 用	バレーボール	79	922
	バドミントン	381	3,507
	バスケットボール	466	7,614
	体 操	56	765
	ソフトバレー	22	291
	卓 球	8	374
	フェンシング	46	666
	バウンドテニス	99	547
	ダ ン ス	38	598
	太 極 拳	31	363
	剣 道	31	838
	そ の 他	50	649
	小 計	1,307	17,134
体力づくり教室	体力づくり教室 (3教室)	90	2,557
ス ポ ー ツ 教 室	スポーツ教室 (1教室)	23	413
合 計			22,870

3 香陵武道場

(1) 公開教室

区 分	回 数	参加人員	摘 要
ス ポ ー ツ 教 室 (4教室)	3期延べ113回	1,208 人	スポーツ協会主催

## (2) 種目・年度別利用状況

(単位 人)

練習場 種目 年度	剣道場・柔道場									弓道場	計
	剣道	空手	なぎなた	居合道	体操・ダンス	柔道	太極拳	合気道	その他	弓道	
3	2,969	743	388	517	2,886	2,665	1,463	558	244	4,573	17,006
2	2,140	591	394	888	1,751	3,228	1,407	592	74	3,724	14,789

## 4 戸田B&amp;G海洋センター

戸田地区におけるスポーツ・レクリエーションの拠点として、また、地域に密着した親しまれる施設として利用に供した。

## (1) 年度別利用状況

(単位 人)

区分 年度	プー ル		体 育 室	計
	個人利用者	体力づくり教室利用者	団体利用者	
3	1,660	806	5,347	7,813
2	1,187		6,367	7,554

## (2) 目的・種目別利用状況

区 分	目 的 ・ 種 目	利用回数	利用者数
個 人 利 用	プール	— 回	1,660 人
団 体 利 用	バレーボール	74	1,191
	バドミントン	50	167
	バスケットボール	63	692
	卓 球	103	787
	ミニバス	68	1,035
	柔 道	62	835
	そ の 他 (ダンス・カローリング等)	59	640
	小 計	479	5,347
体力づくり教室	体力づくり教室 (9教室)	57	806
合 計			7,813

## 5 屋外施設の年度別利用状況

区分 年度	市営野球場		大岡市民運動場		西部市民運動場		中瀬市民運動場	
3	118 <sup>回</sup>	8,705 <sup>人</sup>	731 <sup>回</sup>	21,474 <sup>人</sup>	515 <sup>回</sup>	9,188 <sup>人</sup>	437 <sup>回</sup>	5,845 <sup>人</sup>
2	121	7,886	613	18,871	444	8,093	402	5,417

区分 年度	愛鷹運動公園テニスコート (12面)	大岡公園テニスコート (4面)	戸田テニスコート (2面)
3	61,308 <sup>人</sup>	28,642 <sup>人</sup>	214 <sup>人</sup>
2	58,222	25,939	360

## 第7節 図 書 館

### 1 市立図書館協議会

図書館の円滑な運営を図るため、委員9人による協議会を2回開催し、運営や図書館サービスなどについて協議した。

### 2 資料整備

利用者が求める様々な情報に対応するため、一般書、児童書、参考調査図書、電子書籍及び視聴覚資料を整備した。

#### (1) 図書資料

区 分		購 入 数	金 額	蔵 書 数
本 館	一般	7,456 <sup>冊</sup>	19,727,064 <sup>円</sup>	402,265 <sup>冊</sup>
	児童	1,885	3,679,813	79,887
戸 田	一般	360	740,476	25,018
	児童	227	401,324	11,895
自 動 車 文 庫	一般	302	338,585	3,814
	児童	97	126,445	2,149
地 区 セ ン タ ー	一般	667	1,121,910	31,301
	児童	283	531,297	39,939
計	一般	8,785	21,928,035	462,398
	児童	2,492	4,738,879	133,870

#### (2) 電子書籍資料

区 分		購 入 数	金 額	蔵 書 数
ぬまづ電子図書館	一般	255 <sup>点</sup>	943,646 <sup>円</sup>	12,373 <sup>点</sup>
	児童	268	647,354	1,016
計		523	1,591,000	13,389

### (3) 視聴覚資料

区 分	購 入 数	金 額	所 蔵 数
本 館	309 <sup>点</sup>	1,344,297 <sup>円</sup>	41,965 <sup>点</sup>
戸 田	16	102,493	1,212
計	325	1,446,790	43,177

### 3 館内・館外業務

本館及び戸田図書館では、一般書、児童書、視聴覚資料、郷土資料、新聞、雑誌等の閲覧・貸出しや、予約・リクエストサービス、レファレンスサービス、コピーサービスなどを行うとともに、本館でのWi-Fiサービスを提供した。また、市街地周辺部の利用者に対して自動車文庫や地区センターの図書室において貸出しを行った。

#### (1) 入館者数

区 分	年 度	開館日数	入 館 者 数		
			年 間	1月平均	1日平均
本 館	3	295 <sup>日</sup>	256,002 <sup>人</sup>	21,334 <sup>人</sup>	868 <sup>人</sup>
	2	274	217,574	18,131	794
戸 田	3	282	6,183	515	22
	2	265	4,562	380	17

## (2) 貸出利用者数、貸出数

(視聴覚資料は館内ブース利用も含む)

区 分	年 度	利用者数	貸 出 数		
			図書資料	視聴覚資料	計
本 館	3	228,727 <sup>人</sup>	671,914 <sup>冊</sup>	84,148 <sup>点</sup>	756,062 <sup>冊・点</sup>
	2	210,062	634,216	90,301	724,517
戸 田	3	2,826	7,094	410	7,504
	2	2,587	6,483	347	6,830
自動車文庫	3	3,481	16,057	—	16,057
	2	2,961	14,378	—	14,378
地区センター	3	12,499	42,602	—	42,602
	2	9,536	35,479	—	35,479
計	3	247,533	737,667	84,558	822,225
	2	225,146	690,556	90,648	781,204

## (3) ぬまづ電子図書館

年 度	開館日数	貸 出 数	
		年 間	1 日平均
3	365 <sup>日</sup>	17,950 <sup>点</sup>	49 <sup>点</sup>
2	62	6,385	103

※令和3年1月29日に開館

## (4) 自動車文庫

市内45か所のステーション及び小学校2校を巡回して、市街地周辺部の利用者及び小学生への図書貸出しを行った。

年 度	出動日数	貸 出 数		
		年 間	1 月平均	1 日平均
3	183 <sup>日</sup>	16,057 <sup>冊</sup>	1,338 <sup>冊</sup>	88 <sup>冊</sup>
2	169	14,378	1,198	85

(5) 郵送・宅配・団体貸出

図書館に来館することが困難な利用者（身体障がい者等）で登録された148人を対象に郵送や宅配貸出しを行った。また、沼津聴覚特別支援学校等に図書の団体貸出しを行った。

年 度	郵 送		宅 配		団 体	
	利用件数	貸 出 数	利用件数	貸 出 数	利用者数	貸 出 数
3	24 <sup>件</sup>	56 <sup>冊</sup>	113 <sup>件</sup>	593 <sup>冊</sup>	31 <sup>団体</sup>	16,862 <sup>冊</sup>
2	19	39	134	833	32	12,420

(6) レファレンスサービス

職員が利用者の求める資料の検索や情報の収集を支援する、レファレンスサービスを行った。

(単位 件)

年 度	窓 口	電 話	文 書	E-mail	計
3	6,687	110		3	6,800
2	4,663	93	3	5	4,764

(7) 相 互 貸 借

各図書館の間で相互に図書資料の貸借を行い、利用者の要求に応じている。資料の貸借は、県立中央図書館の協力車に依頼、郵送、宅配便の方法から選択して行った。

ア 貸 出

年 度	県内図書館		県外図書館		計	
	件 数	貸出数	件 数	貸出数	件 数	貸出数
3	778 <sup>件</sup>	1,178 <sup>冊</sup>	10 <sup>件</sup>	13 <sup>冊</sup>	788 <sup>件</sup>	1,191 <sup>冊</sup>
2	684	1,057	6	6	690	1,063

イ 借 受

年 度	県内図書館		県外図書館		計	
	件 数	借受数	件 数	借受数	件 数	借受数
3	1,032 <sup>件</sup>	1,607 <sup>冊</sup>	56 <sup>件</sup>	94 <sup>冊</sup>	1,088 <sup>件</sup>	1,701 <sup>冊</sup>
2	1,053	1,499	48	78	1,101	1,577

(8) 静岡県東部地域図書館間の相互利用

県東部地域の公共図書館相互利用協定により、各市町の利用者は、直接、協定先の図書館から図書資料の貸出しを受けることができる。

協定先は、熱海市、三島市、富士宮市、伊東市、富士市、御殿場市、下田市、裾野市、伊豆市、伊豆の国市、南伊豆町、松崎町、函南町、清水町、長泉町及び小山町の10市6町で、令和4年3月31日現在の登録者数は、20,758人である。

#### 4 自主事業

(1) 図書館講座等

図書館活動の一環として、図書館資料の提供と関連をもたせ、資料の活用を促進し、市民の読書活動推進の一助となるよう講座等を開催した。

ア 子どもの本を知る講座

月日	内 容	講 師
7.18	「紙芝居を楽しむ」 ～扉のむこうで待っている世界～	静岡県子ども読書アドバイザー 鈴木 真理

参加者 26人 会場 第1・2講座室 開催時間 13:30～15:00

イ 夏休み子ども講座

期 間	内 容	講 師
8.7	「自由研究 好きを学びのきっかけに」 ～宝塚歌劇の研究が本になるまで～	静岡県小学校教諭 永井 咲季

参加者 19人 会場 視聴覚ホール 開催時間 13:30～15:00

ウ 読書週間講演会

月 日	内 容	講 師
10.31	講演及び競技かるた実演 「競技かるたの魅力」 ～ちはやふるの世界をご紹介します～	小倉百人一首競技かるた永世名人 西郷 直樹

参加者 50人 会場 視聴覚ホール・展示ホール 開催時間 13:30～15:00  
動画配信視聴回数 講演会動画213回、実演動画278回

エ 読みメン講座

月 日	内 容	講 師
4.3.13	「街頭紙芝居芸人 三ツ沢グッチの読みメン講座 第2弾」 ～表現力をアップして、 紙芝居を描いて演じてみよう!!～	街頭紙芝居芸人 三ツ沢グッチ

参加者 18人 会場 第1・2講座室 開催時間 13:30～15:00

(2) 展 示 事 業

期 間	名 称	内 容
4.7～6.30	「ぬまづ電子図書館開館記念 キャラクターぬりえ展」	市民等から募集した「ぬまづ電子図書館」マスコットキャラクター「ぶっくまーくん」のぬり絵作品を展示。
7.8～8.4	夏の企画展 「こころにひびく絵本との出会い」 ～贈るしあわせ、めぐる四季～	贈って喜ばれるおすすめ絵本や夏を感じる絵本を展示。
10.7～11.23	読書週間企画展 「競技かるたと百人一首」	競技かるた・小倉百人一首に関する資料を展示したほか、講演会講師である西郷直樹名人所有の観賞用かるた等を展示。
12.2～ 4.1.16	「子どもたちの ゆく年 くる年」	令和4年の干支である寅の本や冬の本の紹介、来館者の絵馬を展示。
4.2.11～ 3.4	富士山の日企画展 「日本の心 富士山」	世界遺産登録までの道のりの紹介、芸術と富士山、富士登山安全ガイド、富士山に関するクイズを展示。

(3) その他事業

ア 「子ども読書活動推進」関連事業

講演会 「五分でわかる本の楽しさ」

開催日 4月29日

講師 フリーアナウンサー 杉山 直

参加者 45人

イ 夏休み図書館子ども探検隊

小学生を対象に、図書館の仕事を体験することによって、図書館のしくみや本の調べ方などを学び、将来の利用者を育てることを目的として開催した。

開催日 本館 7月27・28・29・30日、8月3・4・5・10日

戸田図書館 7月27・28・29・30日

参加者 本館 33人 戸田図書館 8人

ウ 上映会

視聴覚資料の有効利用を図る観点から、夏休み及び冬休みに児童向けの上映会を開催した。

本館 上映回数 13回 参加者 254人

戸田図書館 上映回数 1回 参加者 9人

エ クリスマスフェスティバル

乳児・幼児・小学生低学年向けにジャンル分けしたおすすめの本の紹介と、手遊びや自宅で簡単に作れる工作の紹介動画を配信した。

また、図書館1階にクリスマスツリーを設置し、来館した子どもたちによるオーナメント装飾を行った。

動画配信 11月16日～12月31日

視聴回数 おすすめの絵本 299回

工作 401回

手遊び・パネルシアター 356回

オ ビブリオバトル

(ア) ビブリオバトル小中学生大会 in 沼津2021

学校と連携し、小中学生を対象としたビブリオバトルを開催した。

開催日 12月12日

参加者 動画による一次審査 小学生の部 16人 中学生の部 13人

発表者 小学生の部 8人 中学生の部 5人

(イ) 大人のビブリオバトル

高校生以上を対象としたビブリオバトルを、オンラインで開催した。

開催日 令和4年3月4日

参加者 発表者 5人

## 5 図書館情報ネットワーク事業

本館と戸田図書館及び市内16か所の地区センターをコンピュータ回線でネットワーク化することで、図書館の分館的な機能を整備している。また、パソコンや携帯電話から図書館資料の検索や予約が可能な図書館ホームページ、Facebook及びTwitterによる情報提供を行うことで、利用者の利便向上と図書館資料の利用促進を図った。

ホームページアクセス件数 331,307件

オンライン予約件数 30,743件

ぬまづ電子図書館予約件数 2,772件

## 第8節 市民文化センター

### 1 市民文化センター

公益財団法人沼津市振興公社を指定管理者として、文化芸術の鑑賞・交流の場として利用者の立場に立った利用しやすい施設となるように努めた。

また、文化芸術活動を支援・活性化することを目的とし、文化センター大・小ホールの利用料金を50%減免する「文化活動にエール！市民文化センター 大・小ホール利用サポート事業」を実施した。

#### (1) 市民文化センター運営審議会

市民文化センターの円滑な運営を図るため、委員7人による審議회를2回開催し、施設の利用促進などについて審議した。

## (2) 利用状況

区 分	可 能		使 用					利用人数
	日 数	回 数	日 数	率	件 数	回 数	率	
大 ホ ー ル	313 <sup>日</sup>	939 <sup>回</sup>	131 <sup>日</sup>	41.9 <sup>%</sup>	140 <sup>件</sup>	318 <sup>回</sup>	33.9 <sup>%</sup>	46,817 <sup>人</sup>
小 ホ ー ル	315	945	203	64.4	232	432	45.7	24,235
ホ ー ル 計	628	1,884	334	53.2	372	750	39.8	71,052
大 会 議 室	337	1,011	162	48.1	187	298	29.5	6,185
第 1 練 習 室	339	1,017	86	25.4	89	146	14.4	1,872
第 2 練 習 室	339	1,017	98	28.9	107	175	17.2	2,578
第 3 練 習 室	338	1,014	157	46.4	175	261	25.7	5,376
第 1 会 議 室	339	1,017	54	15.9	57	100	9.8	805
第 2 会 議 室	339	1,017	66	19.5	66	135	13.3	469
第 3 会 議 室	339	1,017	100	29.5	103	156	15.3	1,112
第 4 会 議 室	339	1,017	128	37.8	135	226	22.2	1,368
第 5 会 議 室	339	1,017	173	51.0	187	279	27.4	2,172
第 6 会 議 室	339	1,017	104	30.7	104	173	17.0	607
第 7 会 議 室	339	1,017	14	4.1	14	26	2.6	132
特 別 会 議 室	339	1,017	12	3.5	12	22	2.2	32
会 議 室 計	4,065	12,195	1,154	28.4	1,236	1,997	16.4	22,708
1リハーサル室	337	1,011	176	52.2	227	311	30.8	2,376
2リハーサル室	339	1,017	186	54.9	253	346	34.0	2,370
リハーサル室計	676	2,028	362	53.6	480	657	32.4	4,746
展 示 室	339	339	61	18.0	61	61	18.0	3,473
計	5,708	16,446	1,911	33.5	2,149	3,465	21.1	101,979